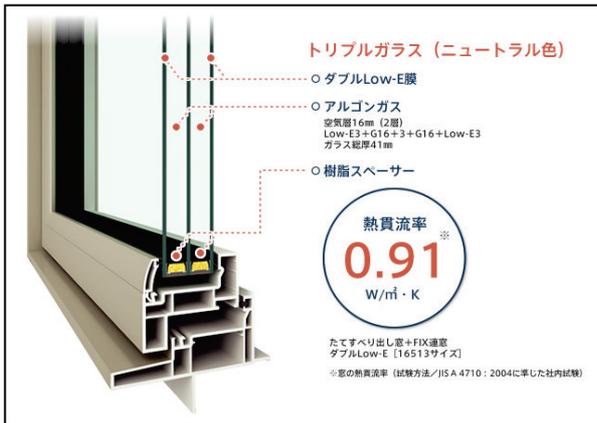
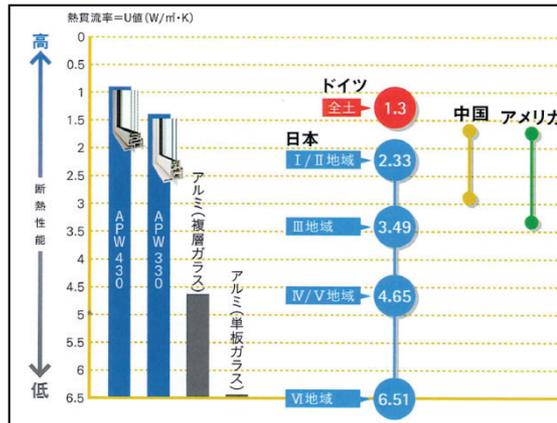


各社の考え方	
<p>□ 算定を行う背景・目的</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● サプライチェーン全体の排出量の把握・削減が環境負荷低減のために重要になっており、Scope3算定により、効率的な対策が可能である。</li> <li>● お取引様からの情報開示の要求に対応するとともに、ステークホルダーに当社の環境負荷低減の取り組みを理解していただくことが可能である。</li> </ul>
<p>□ 算定結果の活用方法</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 削減機会のより大きなカテゴリの環境負荷低減に取り組む。</li> <li>● お客様からの情報開示要求に応える。</li> <li>● 社内の算定方法、算定体制を確立し、排出量の透明性を高める。</li> <li>● 生活に密着した『窓』を製造・販売していることから、断熱性能の高い窓の使用による環境負荷低減の効果をお客様にアピールする。</li> </ul>
<p>□ 算定のメリット</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● サプライチェーン全体での排出量が明確になり、効果的な対策が可能である。</li> <li>● 排出量の透明性が高まり、お客様の情報開示要求にも対応可能である。</li> </ul>
<p>□ 社内の算定体制</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 調達、物流、経理部門からデータを収集し、環境部門で算定する。</li> </ul>

## ■ 世界トップクラス、国内最高の断熱性能樹脂窓：APW430



## ■ 世界の窓の断熱性能基準（開口部の熱貫流率の基準値）



### 【熱貫流率】

熱の伝えやすさを表す数値で、数値が小さいほど断熱性が優れている。

各国の断熱性能基準に幅があるのは、同じ国であっても各地方の気候に合わせて基準が異なるからである。

#### 「H11年省エネルギー基準」地域の区分

I地域	北海道
II地域	青森県、岩手県、秋田県
III地域	宮城県、山形県、福島県、栃木県、新潟県、長野県
IV地域	茨城県、群馬県、埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県、富山県、石川県、福井県、山梨県、岐阜県、静岡県、愛知県、三重県、滋賀県、京都府、大阪府、兵庫県、奈良県、和歌山県、鳥取県、島根県、岡山県、広島県、山口県、徳島県、香川県、愛媛県、高知県、福岡県、佐賀県、長崎県、熊本県、大分県
V地域	宮崎県、鹿児島県
VI地域	沖縄県

## 各社の考え方

<p>□ サプライチェーン排出量の削減に向けて</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 原材料がサプライチェーン全体のCO<sub>2</sub>排出量の約7割を占めるため、CO<sub>2</sub>排出量が少ない原材料への変更を積極的に推進する。</li> <li>● 物流では、適切な配車と積載率の向上ならびにモーダルシフトに取り組む。</li> <li>● グリーン調達、廃棄物の排出量削減に取り組む。</li> </ul>
<p>□ サプライチェーン排出量算定の課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 原単位が変動した場合の削減効果の評価が必要である。</li> <li>● 原単位、排出量の精度向上が必要である。</li> <li>● 海外の活動量、原単位データの整備である。</li> </ul>
<p>□ その他(任意)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 現在販売している窓は省エネ性能に優れたエコ商品が多い。APW430に代表される省エネ性能が高い窓を使うと住宅全体のエネルギー削減(図1参照)に貢献でき、CO<sub>2</sub>排出量の削減が期待できる。2013年度に国内のYKK APのサプライチェーン(Scope1・Scope2含む)のCO<sub>2</sub>排出量と販売した住宅の窓のCO<sub>2</sub>排出量の削減効果(CO<sub>2</sub>削減貢献量という)を比較したところ、CO<sub>2</sub>削減貢献量がサプライチェーンのCO<sub>2</sub>排出量を上回っている(図2参照)ことが分かった。</li> </ul>

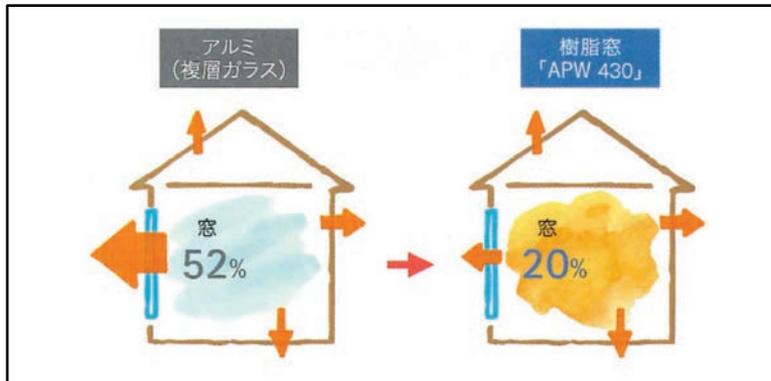


図1: 窓から逃げる熱損失割合比較

【算出条件】

住宅断熱仕様 H11省エネルギー基準適合レベル ●住宅モデル 「住宅事業建築主の判断の基準におけるエネルギー消費量計算方法の解説」の計算モデルに準拠 2階建て、延床面積:120.08㎡、開口比率:26.8%(4~8地域) ●計算地域 改正省エネルギー基準(H25年基準)6地域

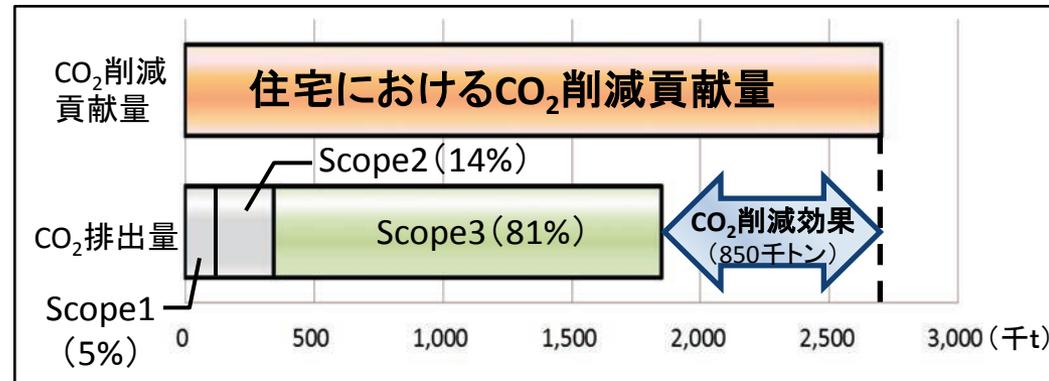


図2: サプライチェーンのCO<sub>2</sub>排出量と窓使用時の住宅のCO<sub>2</sub>削減貢献量

【算出条件】

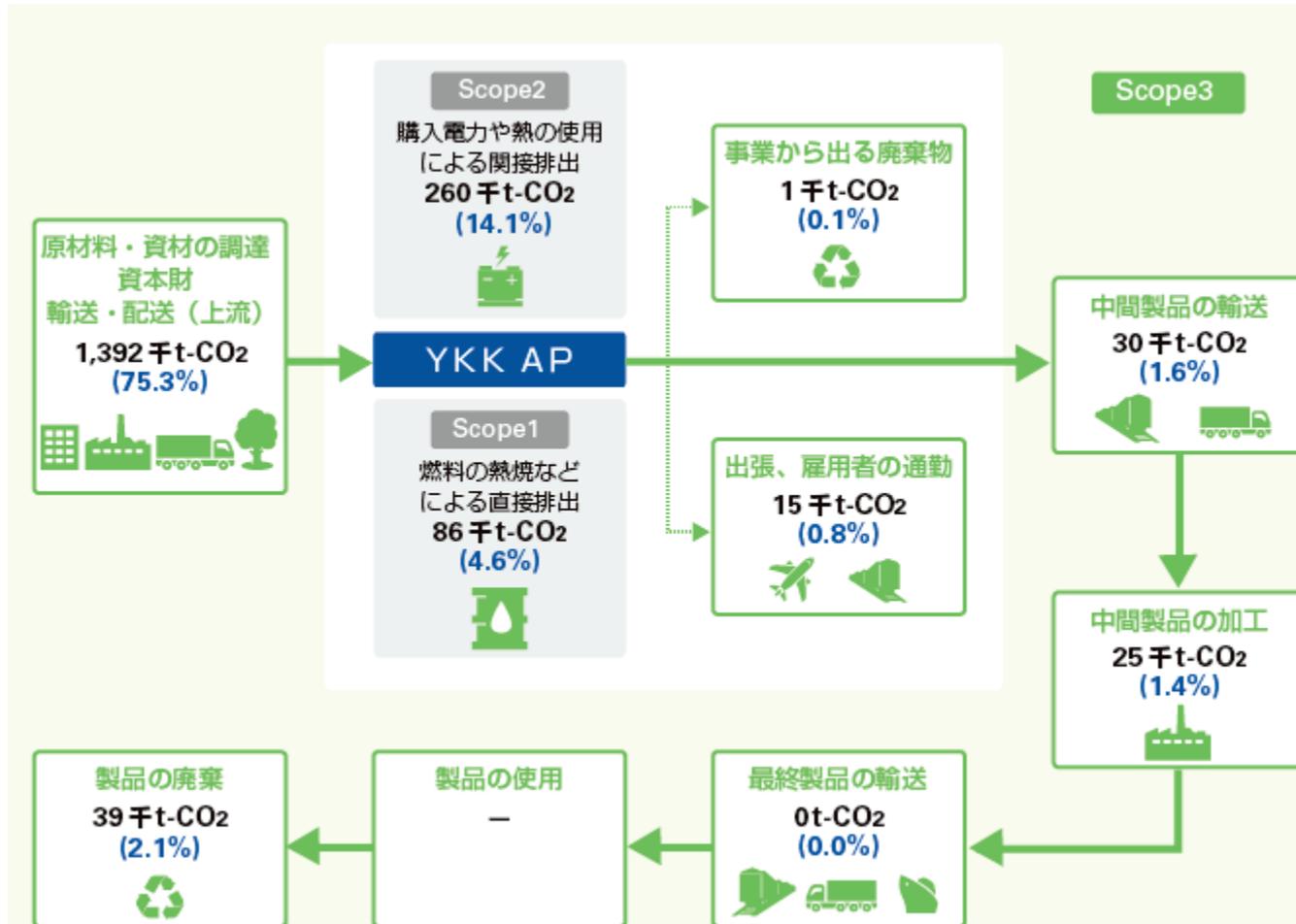
断熱性の高い窓による、住宅の空調エネルギー削減効果(CO<sub>2</sub>削減効果)を「削減貢献量」として算出  
 ●比較対象: 1990年当時の窓(アルミ製)と現在の窓(樹脂製) ●使用期間: 30年間(製品寿命)  
 ●算出方法: 窓1セット当たり削減貢献量×2013年度出荷セット数

カテゴリ	算定方法	
	活動量	原単位
カテゴリ1「購入した製品・サービス」	● 購入した原材料・資材の重量	● 原単位データベース(※1 ※2)
カテゴリ2「資本財」	● 資本財の調達金額	● 原単位データベース(※2)
カテゴリ3「Scope1,2に含まれない燃料及びエネルギー活動」	● 電気・燃料のエネルギー使用量	● 原単位データベース(※1)
カテゴリ4「輸送、配送(上流)」	● 算定・報告・公表制度における特定荷主の算定方法に基づき算定	
カテゴリ5「事業から出る廃棄物」	● 廃棄物種類別処理量	● 原単位データベース(※2)
カテゴリ6「出張」	● 交通費移動手段別支給額	● 原単位データベース(※2)
カテゴリ7「雇用者の通勤」	● 交通費移動手段別支給額	● 原単位データベース(※2)
カテゴリ9「輸送、配送(下流)」	● シナリオ設定による	● トンキロ法輸送機関別排出原単位
カテゴリ10「販売した製品の加工」	● シナリオ設定による	● 自社製造加工重量あたり原単位
カテゴリ12「販売した製品の廃棄」	● 荷主分の販売物流量	● 原単位データベース(※2)

※1「カーボンフットプリントコミュニケーションプログラム 基本データベースver.1.01(国内データ)」

※2「サプライチェーンを通じた組織の温室効果ガス排出等の算定のための排出原単位データベースVer2.0」

## 算定結果



\*CO<sub>2</sub>排出量算定: YKK APの国内における2013年度排出量